

令和 7 年度知財金融事業 公募説明会

知財金融事業

1

知財金融について
知財金融の目的、背景、知財ビジネス報告書について

2

知財金融事業に応募いただきたい方
対象となる中小企業、金融機関について

3

支援の流れ
支援の流れ、応募者の実施事項

4

公募要領
採択概要、公募スケジュール

5

よくある質問

知財金融事業

1

知財金融について

知財金融の目的、背景、知財ビジネス報告書について

2

知財金融事業に応募いただきたい方

対象となる中小企業、金融機関について

3

支援の流れ

支援の流れ、応募者の実施事項

4

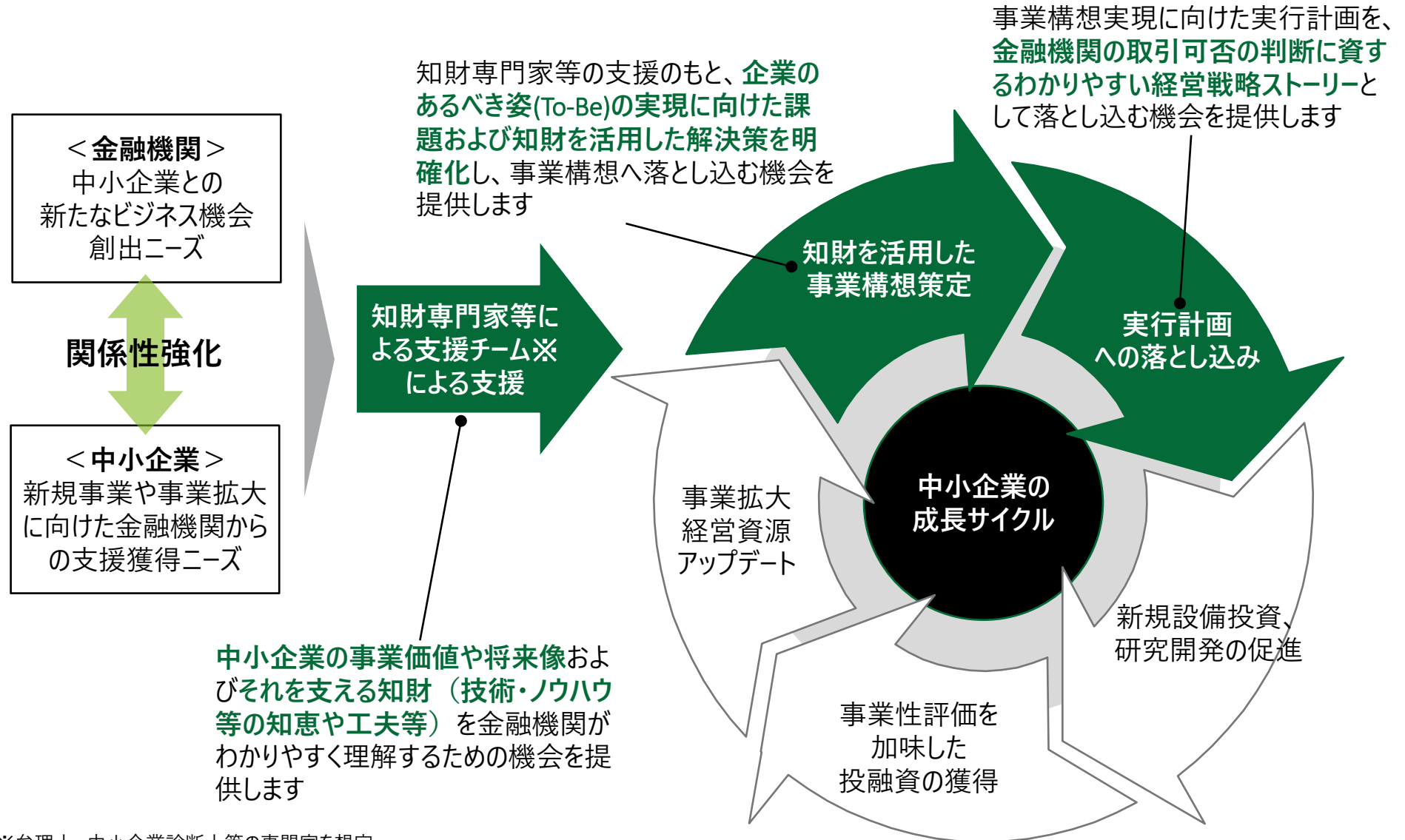
公募要領

採択概要、公募スケジュール

5

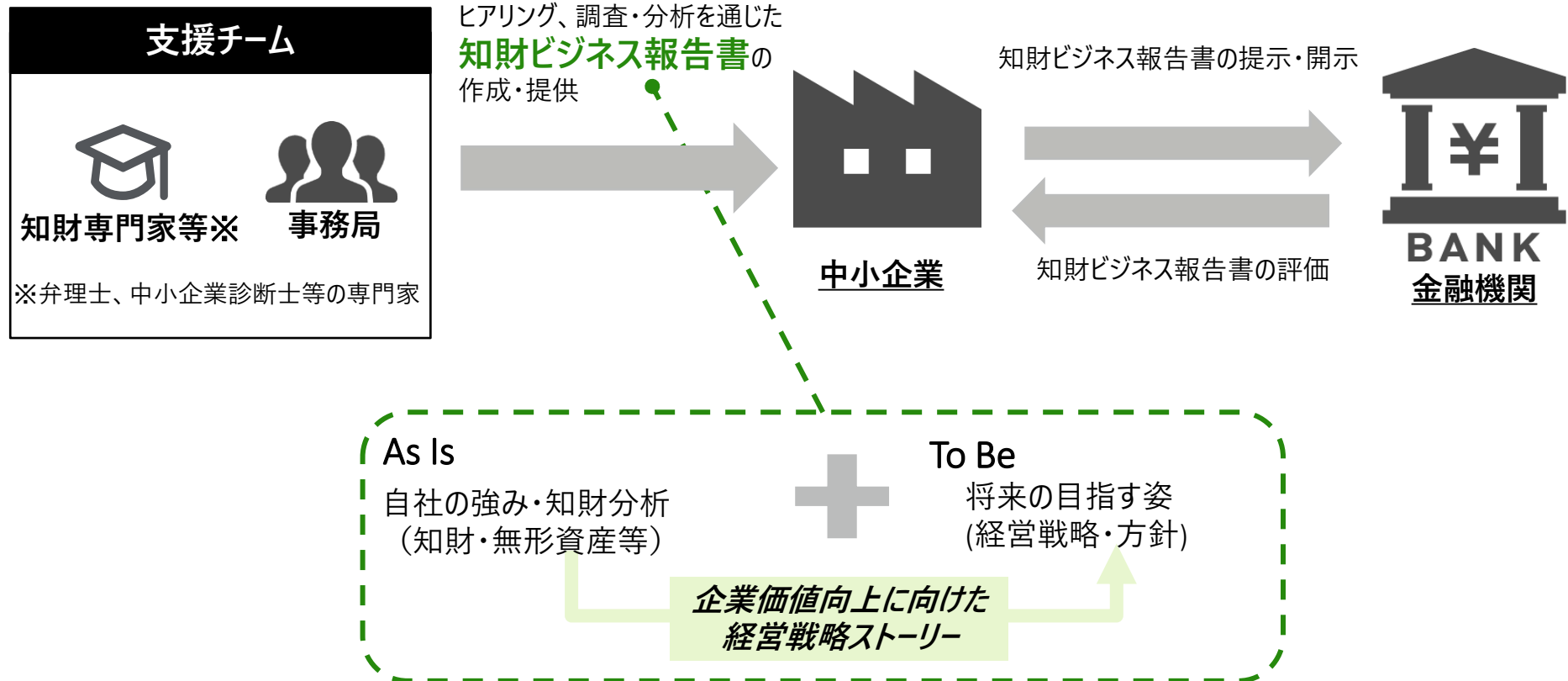
よくある質問

知財金融事業では、中小企業に対し、知財を活用した事業計画へ落とし込む機会を提供することで、金融機関との関係性強化及び企業価値向上を後押しします



※弁理士、中小企業診断士等の専門家を想定

昨年度からは、中小企業の企業価値向上に向けた経営戦略ストーリーを描く「知財ビジネス報告書」の作成支援により、中小企業および金融機関を支援しております



令和5年度まで作成支援をしていた知財ビジネス評価書とは資料の位置づけ並びに内容が異なります

	知財ビジネス評価書 (R5年度まで)	知財ビジネス報告書 (R6度以降)
資料の位置づけ	金融機関が中小企業に対して、知財ビジネス評価書を提供し、関係性強化に繋げる ※金融機関がレポートの書き手とした前提で資料の作成を事務局・専門家が支援	中小企業が金融機関に対して、知財ビジネス報告書を提供し、関係性強化に繋げる ※中小企業がレポートの書き手とした前提で資料の作成を事務局・専門家が支援
資料の内容	中小企業の事業・知財の現状(As-Is)を中心に記載 ・ 事業の概要 ・ 事業実績 ・ 保有知財の分析・評価 ・ 事業環境分析 ・ 現状の課題など	As-Isに加え、将来の目指すべき姿(To-Be)に向けた知財活用による企業価値向上に向けた経営戦略ストーリーを記載 ・ 左記のAs-Is ・ マーケットイン型での課題解決の方向性、事業目標 ・ 必要な経営戦略リスト、戦略検討に向けた検討論点 ・ ビジネスモデル ・ 知財戦略、販売・市場開拓戦略、財務戦略など
資料の公開方針	非公開	原則公開 ※財務やノウハウなど、開示したくない情報は非公開にできます

知財金融事業の情報発信のため、知財ビジネス報告書の公開を前提としています

公開の理由

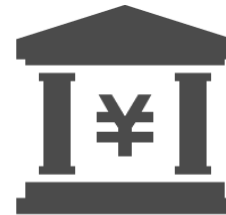
中小企業、金融機関、弁理士等の専門家の皆様に、知財金融に意欲的に取り組んでいただくことを目的として、知財・無形資産の活用戦略が見える化（＝知財ビジネス報告書）し、広く情報発信します。

活用の例



中小企業

同業種・事業形態における事例の把握



BANK
金融機関

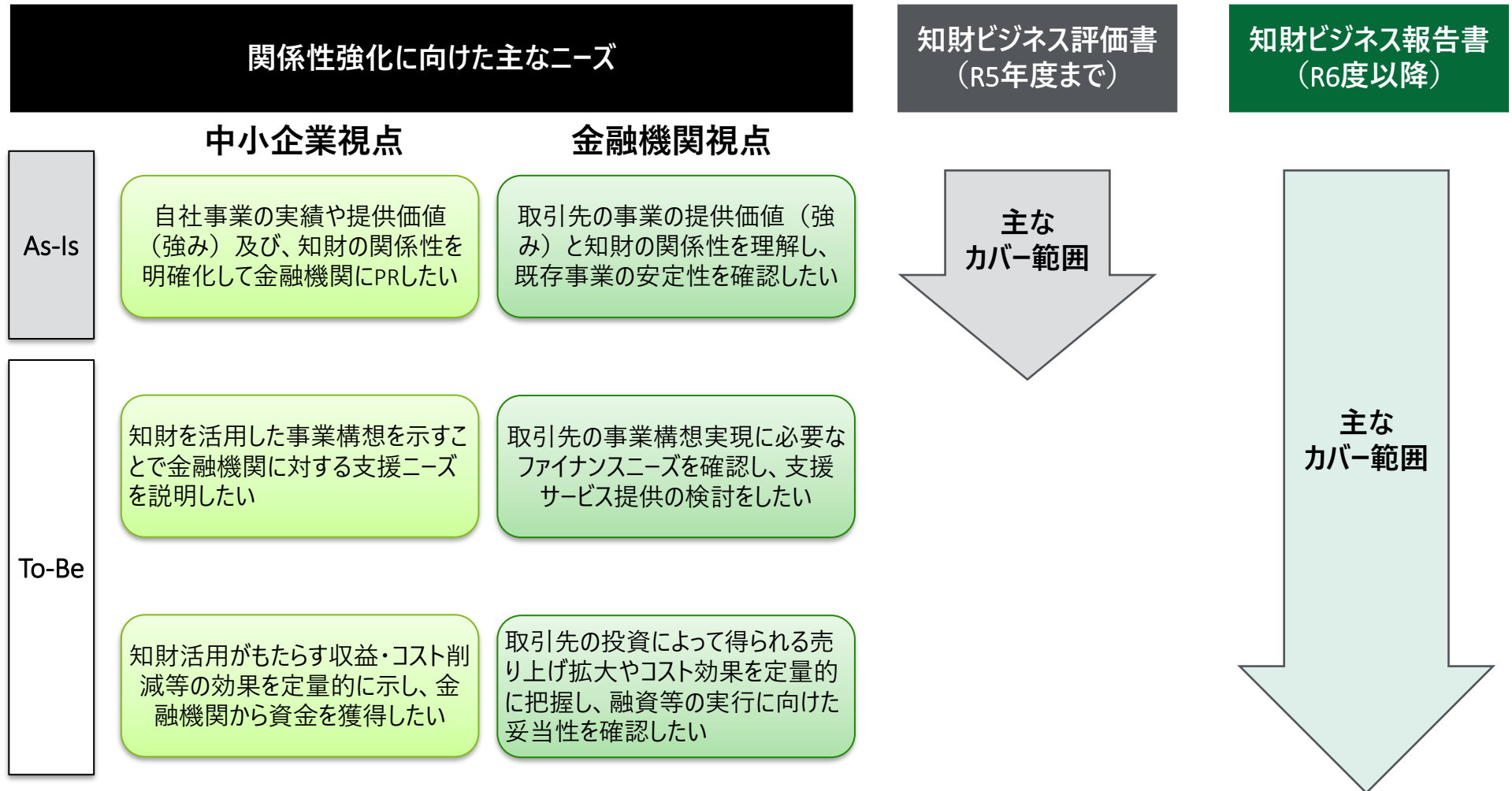
中小企業の事業性評価方法・専門家の把握



知財専門家

作成ポイントの理解

知財を起点として、融資をはじめとする中小企業支援を活性化させたい金融機関並びに 中小企業はぜひ応募をご検討ください



知財ビジネス報告書は、知的財産をどのように生み出してきたか、その知的財産を活用してどのように企業価値向上に繋げていくかのストーリーが読み取れる構成を基本としております

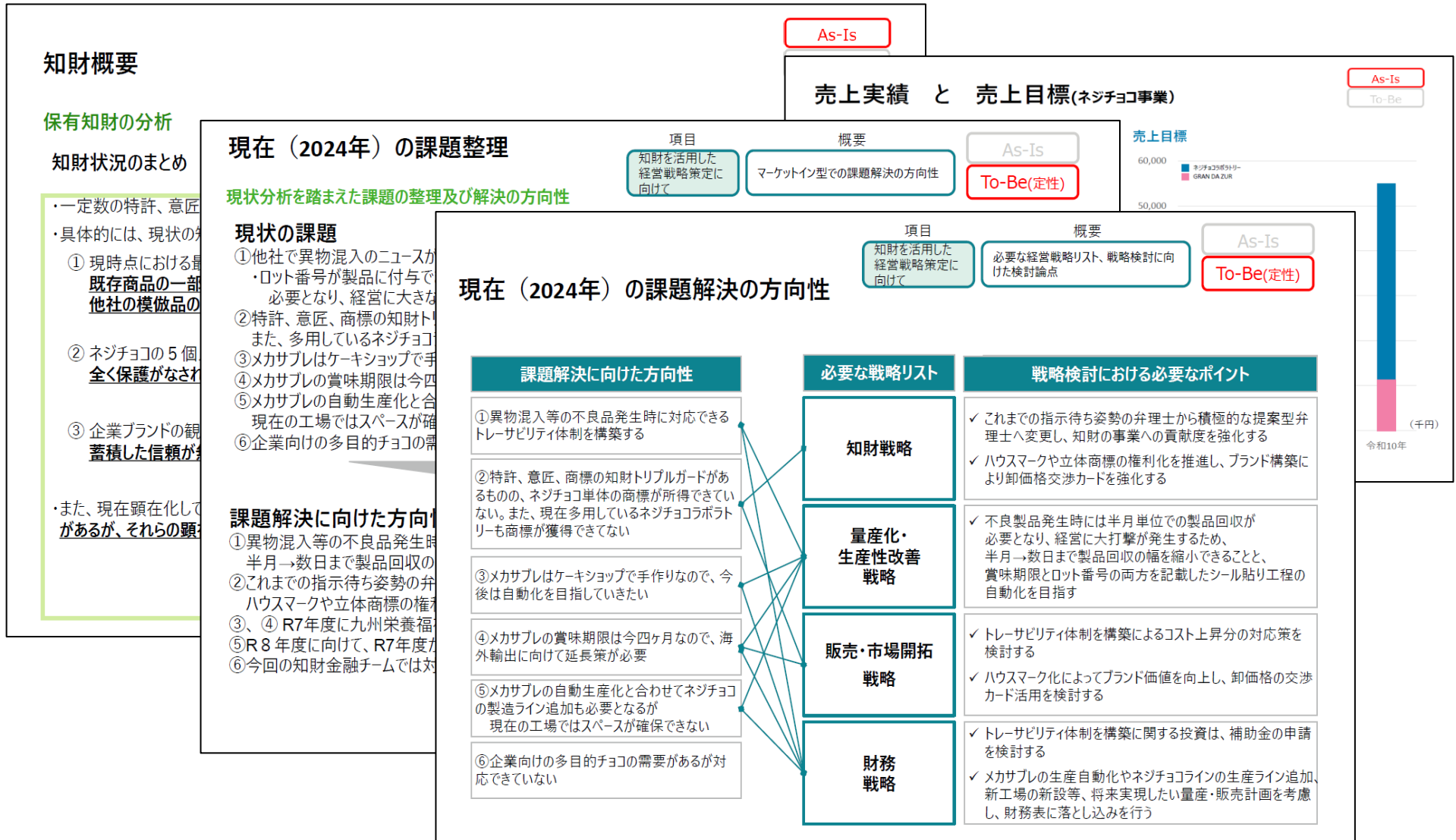
今年度知財ビジネス報告書の基本構成

今年度知財ビジネス報告書の基本構成

#	考え方	項目	概要	狙い	知財ビジネス 報告書 (R6以降)	知財ビジネス 評価書 (R5まで)
1	過去 ～現在	企業概要 (As-Is)	事業概要・経営方針	知的財産（強み・壁） をいかにして生み出し蓄 積してきたかについてス トーリー化	主な カバー 範囲	主な カバー 範囲
2			事業実績			
3	事業の核となる 知的財産 (As-Is)	事業への貢献内容（製品サービス上の位置づけ等）				
4		保有知財の分析・評価				
5	現状の ビジネス状況 (As-Is)	事業環境分析（3C分析、SWOT分析等）	現状のビジネスにおける 課題を分析する			
6		現状の課題				
7	現在 ～将来	知財を活用した 経営戦略策定 に向けて (To-Be)	マーケットイン型での課題解決の方向性、事業目標	経営戦略策定に向けた イントロダクションを提供 する 定性的な 経営戦略検討		
8			必要な経営戦略リスト、戦略検討に向けた検討論点			
9			ビジネスモデル（ビジネスモデルキャンバス等）			
10		知財を活用した 経営戦略 (To-Be)	知財戦略（権利化方針、技術保護方針等）	ビジョンの実現に向けた 計画やファイナンスニーズ の時期/規模を明確化し た経営戦略のストーリー 化 定量的な 経営戦略検討		
11			販売・市場開拓戦略（STP分析、マーケット開拓方針等）			
12			量産化・生産性改善戦略（自動化・DX化等）			
13			財務戦略（資金使途、必要金額、調達方法、時期等）			
14		事業（実行） 計画（To-Be）	数値計画、アクションプラン			

企業の状況に応じて作成範囲を検討（定性パートは必須、定量パートは金融機関・中小企業・専門家・事務局との協議の上作成範囲を決める）

【参考】知財ビジネス報告書の一例 (知財ビジネス報告書は案件毎に掲載内容やレイアウトは異なります)



令和6年度における事例 ～新たなビジネス機会の創出への活用例①～

事業概要

鏡面塗装ができる高機能な塗料の研究開発を行う研究開発型の化学メーカー。高い研究開発力と稀有な特許技術をより広範な分野へ販路を拡大するために知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。

知財ビジネス報告書への記載概要

項目

金融機関視点の評価の高かった記載内容

過去 ～現在 (As-Is)

知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する

高品質、高耐久、高い意匠性など独自の強みを持つ鏡面塗装技術である「GLANZCOAT」の知財領域における立ち位置を特許分類（出願）マップやニューエントリ・リタイアリマップ等の分析手法を用いることで可視化し、**樹脂、木材、プラスチックなど差別化が可能な分野を明確化**している。

現在 ～将来 (To-Be)

将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する

生産、開発のコスト高、OEM、ODM生産から生じるブランディング効果の不十分さ、営業人材の不足という課題に対して、業界標準品の開発による開発費削減、大手企業との協業による製造費削減、ロゴの作成や自社技術の露出を通しての認知向上による受注拡大などの課題解決の方向性を示すことで、**特許から商標による売上拡大という収益構造の転換を目指すこと**が示されている。

将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する

整理された課題解決の方向性に対して、知財戦略、販売・市場開拓戦略の二つの観点からのアプローチを記載。知財戦略では、具体的な協業先候補となる**大手企業の選定及びライセンス契約による収益獲得等の協業内容を策定**した。販売・市場戦略では、ブランディングの成功例と比較検討することで、**GLANZCOATの高耐久、高機能、高品質という最終消費者に届けたい目指すべきブランドイメージを整理**した。

令和6年度における事例 ～新たなビジネス機会の創出への活用例②～

事業概要

プレスや切削等の精密金属加工をはじめとする14の高度な塑性加工技術を『ナカムラマジック®』と称し、当該技術を駆使して、電子機器、自動車、半導体、航空機等の分野に精密部品を供給している。新たな事業開拓分野の指針を整理するために知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。

知財ビジネス報告書への記載概要

	項目	金融機関視点の評価の高かった記載内容
過去 ～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	長年にわたり蓄積されてきた技術と知識の結晶である『ナカムラマジック®』としてまとめられた14工法を活用した事業について、 従来のヒートシンクに並ぶ事業の大きな柱として、アモルファスモーターコアの開発 に注力しており、 潜在的な市場規模を考慮すると更なる成長可能性がある点が記載 されている。
現在 ～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	ヒートシンク、アモルファスモーターコア共に、顧客製品の仕様に応じた開発であるため収益化までの時間を要することから、 収益増加に向けた、製造面におけるボリューム対応を課題として整理 している。解決の方向性として、 金型提供やライセンスアウト、当社ハンドリングによる第三社製造委託などの新たなビジネスモデル構築の方向性が整理 されている。
	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	ライセンスアウトビジネスを念頭に置いた特許ポートフォリオ、技術パッケージ化、ノウハウ管理を含む知財戦略の検討の必要性が整理 されている。また、 パートナーシップ化に向けた当社技術の認知向上、理解促進に向けた施策が整理 されている（コンテンツマーケティング、プロフェッショナル向けの情報発信等）

令和6年度における事例 ～ビジネス実行の妥当性判断への活用例①～

事業概要

コンテナ港に対し、ETC装置のWCN番号（ETC車載器に割り当てられた固有の番号）を活用した物流管理システムを提供している。自動運転のレベル4の技術を応用した自動搬送化を目指している。
昨年度実行した融資回収に向けた蓋然性の説明や新たなファイナンス支援に関する金融機関との協議に向けて、知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。

知財ビジネス報告書への記載概要

	項目	金融機関視点の評価の高かった記載内容
過去 ～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	コンテナ港に向けたゲート認証システムを 27年間提供し続けることができている提供価値（ユーザメリット） がわかりやすく整理されている。 （荷役事業者に対する作業効率化、コンテナヤード周辺の渋滞解消等） また、圧倒的なシェアを誇る競合との差別化要素としての個別カスタマイズ性を踏まえた上での、今後の大型港への事業展開に向けた将来の方向性についても整理されている また、今後想定される大手の競合の脅威や、助成金獲得ができないによる技術開発推進を妨げるリスクなど、事業構想推進を妨げる可能性のあるリスクに対する見解や対応方針が記載されている。
現在 ～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	
	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	大型港に向けた新顧客開拓や自動搬送の実現に向けた権利化・ノウハウ化などの参入障壁構築としての知財戦略が整理されており、また、そのために求められる投資等に関する数値計画について、ファイナンスニーズの時期や規模ともに整理されている。

令和6年度における事例 ～ビジネス実行の妥当性判断への活用例②～

事業概要

北九州の有名なお土産としての地位を確立している「ねじチョコ」の製造・販売を行う。メカサブレシリーズといった大手企業との新しい連携商品もヒットしており、順調に成長を続けている中小企業。製造におけるトレーサビリティ体制構築や、新工場設立に向けた融資獲得に向けて知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。

知財ビジネス報告書への記載概要

項目		金融機関視点の評価の高かった記載内容
過去 ～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	ねじチョコの製造・販売に関連する、特許・意匠・商標の知財トリプルガードを構築し、 国内外で販売を安定的に継続できている点が過去3年の売上実績と共に開示 されている。
現在 ～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	異物混入インシデントへの対応方針としてのトレーサビリティ体制構築、および、ネジチョコファクトリーのハウスマーク化などのブランド構築による卸価格交渉カードの強化といった、 今後のコスト削減や、売上拡大に繋がる課題解決の方向性がわかりやすく整理 されている。特にブランド構築については、現在の保有知財の抱えるリスク要因と対応して整理されている。
	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	トレーサビリティ体制構築に関する 具体的な効果が定量的に示されている 。また、売上拡大に必要なブランド構築に向けたアクションや、トレーサビリティ体制構築に向けたアクションそれぞれについて、 ファイナンスニーズの規模と時期と関連付けた形で、販売計画を組み込んだ財務情報と共に整理 されており、金融機関と対話を進めるにあたって参考となる情報が可視化されている。

知財金融事業

1

知財金融について
知財金融の目的、背景、知財ビジネス報告書について

2

知財金融事業に応募いただきたい方
対象となる中小企業、金融機関について

3

支援の流れ
支援の流れ、応募者の実施事項

4

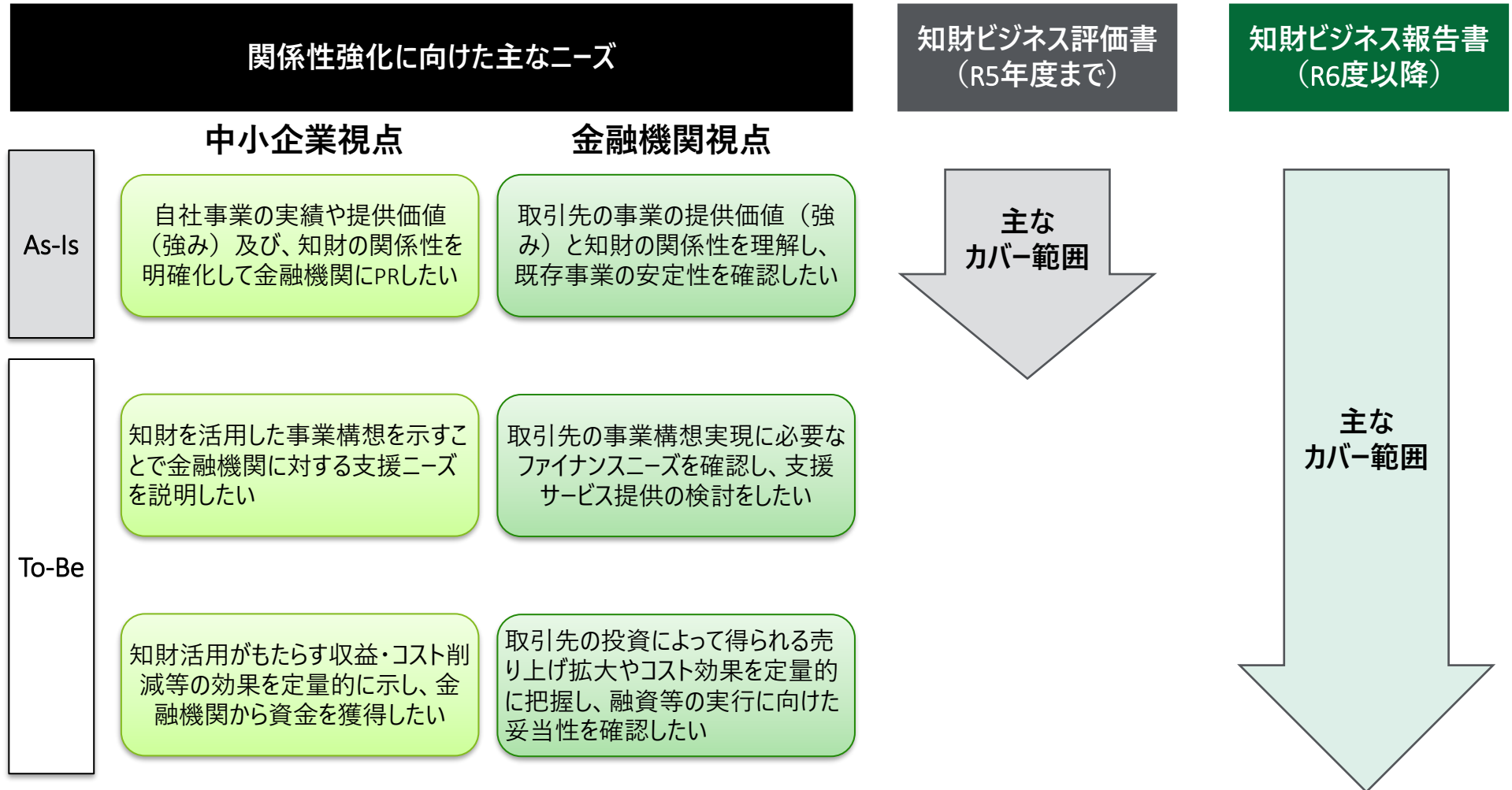
公募要領
採択概要、公募スケジュール

5

よくある質問

知財を起点として、融資をはじめとする中小企業支援を活性化させたい金融機関並びに 中小企業はぜひ応募をご検討ください

再掲



なお、本事業での秘密保持体制へのご同意及び、作成した知財ビジネス報告書の公開に理解をいただいた上でご応募いただきたく思います

	概要	同意の表明方法
秘密保持体制に関して	事業の運営にあたって、事務局は特許庁及び弁理士をはじめとする専門家の間で秘密保持契約に相当する契約を締結しております。	■ 応募書類のチェックリスト ■ ヒアリング時の確認
知財ビジネス報告書の公開に関して	知財ビジネス報告書は原則知財金融ポータルサイトにて公開させていただきます。ただし、財務情報や営業秘密、生産ノウハウなど、非公開情報に関しては、事務局、支援対象企業・金融機関、専門家と相談の上、一部非公開の対応も可能です。	

知財金融事業

1

知財金融について
知財金融の目的、背景、知財ビジネス報告書について

2

知財金融事業に応募いただきたい方
対象となる中小企業、金融機関について

3

支援の流れ
支援の流れ、応募者の実施事項

4

公募要領
採択概要、公募スケジュール

5

よくある質問

作成された知財ビジネス報告書の内容をもとにした金融機関による評価、及び知財ビジネス報告書の公開を行います



応募～採択

- ✓ 応募書類(知財金融ポータルに掲載)を記入後、事務局へ提出いただきます
- ✓ 事務局にて採択事業者を選定します(書類選考+ヒアリングの予定)
- ✓ 企業の業種や課題などを踏まえて、知財ビジネス報告書を作成する弁理士をはじめとする専門家を事務局が選定します



知財ビジネス報告書の作成

- ✓ 専門家による対象企業/金融機関へのヒアリング、対象企業の知財・財務情報、市場調査・分析等を通じて、知財ビジネス報告書の作成支援を行います



知財ビジネス報告書の内容に基づく評価

- ✓ 作成した知財ビジネス報告書を金融機関に共有します
- ✓ 事務局から提示されるフォーマットに従い、報告書の評価を実施いただきます
- ✓ 知財ビジネス報告書、評価の結果を中小企業の皆様へ提供いたします



知財ビジネス報告書の公開

- ✓ 作成した知財ビジネス報告書の中から一般公開できない箇所を黒塗りし、知財金融ポータルに掲載いたします

本事業にあたっては、ヒアリングのご協力、金融機関による知財ビジネス報告書の評価を実施していただく必要があります

金融機関様が実施すること

中小企業様が実施すること



応募～採択

- ✓ 中小企業様に応募の連絡
- ✓ 中小企業様と知財ビジネス報告書作成に係るヒアリング協力の合意

- ✓ 金融機関様に応募の連絡
- ✓ 金融機関様と知財ビジネス報告書の評価実施の合意



知財ビジネス
報告書の作成

- ✓ 専門家による中小企業様へのヒアリングに同席
- ※基礎項目編の作成は不要**

- ✓ 専門家によるヒアリングへの協力(複数回実施)
- ✓ (可能な範囲で)知財、財務に関する情報の提供



知財ビジネス
報告書の内容
に基づく評価

- ✓ 納品された知財ビジネス報告書の内容に基づく評価の実施(評価内容は次頁参照)

—



知財ビジネス
報告書の公開

- ✓ 一般公開できない箇所の確認(基本的には中小企業様が公開できない箇所を指定する想定です)

- ✓ 一般公開できない箇所の指定

金融機関による評価は知財ビジネス報告書を通じた中小企業への理解や支援の方向性について、コメントをいただく想定です

第1章

企業の知財に関する評価及び
将来のビジネス展開に係る実行性向上策に関する内容

第2章

「知財ビジネス報告書」及び
本事業全般に関する評価に関する内容

金融機関による評価の目的

- 応募企業が、金融機関の企業に対する評価の観点を認識し、金融機関からの支援も踏まえた、今後の事業活動の参考とする

- 事務局が、本事業の今後のあり方や改善策を検討する上で活用したい情報を得る

主な評価項目（案）

- 知財ビジネス報告書を通じて認識した、応募企業の知財に関する強み・課題
- 将来的なビジネス展開の実行性を高めるために、金融機関等がサポートできること
- 知財ビジネス報告書は、事業性評価や本業支援、企業とのコミュニケーション等に活用できそうな内容か

- 「知財ビジネス報告書」の内容は実現性があると感じるか
- 将来的なビジネス戦略の実現時における財務インパクトは可視化され、理解が深まる内容であったか
- 知財専門家とのマッチングについて、金融機関や企業のニーズに合致していたか
- 金融機関として、投融資等のファイナンス支援や本業支援に関するビジョンが見えたか

応募企業に対する評価結果の開示要否

- 応募企業にも共有される

- 応募企業へは共有しない（事務局にのみ提出する）

知財金融事業

1

知財金融について
知財金融の目的、背景、知財ビジネス報告書について

2

知財金融事業に応募いただきたい方
対象となる中小企業、金融機関について

3

支援の流れ
支援の流れ、応募者の実施事項

4

公募要領
採択概要、公募スケジュール

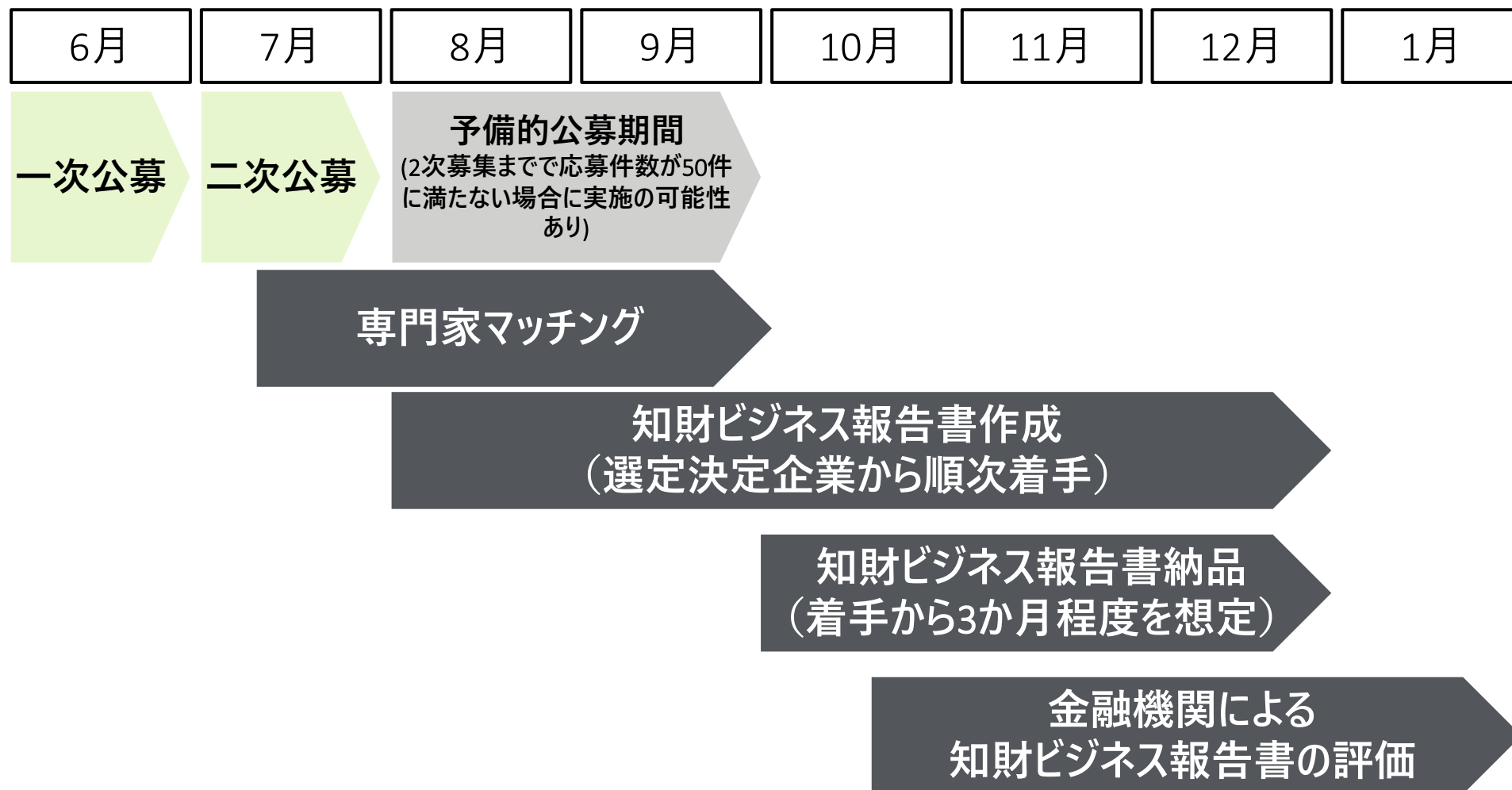
5

よくある質問

知財活用により、伸び悩みや事業強化、承継問題への対応を検討される中小企業を顧客とする金融機関、並びに中小企業ご自身は、ぜひ本事業への応募をご検討ください

採択予定件数	✓50件
締め切り	一次公募：6月2日(月)10時から6月30日(月)17時 二次公募：7月1日(火)10時から7月31日(木)17時 ※二次公募で応募件数が50件に満たない場合は公募期間延長の可能性あり
費用	✓無料
応募主体の要件	✓中小企業への融資等を行っている金融機関(その他金融機関は応相談) • 地方銀行 • 第二地方銀行 • 信用金庫 • 信用組合 • 信用保証協会 • 政府系金融機関 ✓中小企業 • 事業上の強み（知財・無形資産）を金融機関等のステークホルダーとの関係強化に役立てたい中小企業

知財ビジネス報告書は選定企業から順次作成し、作成開始から2～3か月で納品をする想定です



知財金融事業

1

知財金融について
知財金融の目的、背景、知財ビジネス報告書について

2

知財金融事業に応募いただきたい方
対象となる中小企業、金融機関について

3

支援の流れ
支援の流れ、応募者の実施事項

4

公募要領
採択概要、公募スケジュール

5

よくある質問

Q&A

採択率はどれくらいか

✓事務局による審査は、主に事業趣旨との適合度を判断するために実施しており、例年高い採択率となっています。

対象企業が知的財産権を保有していない場合でも応募可能か

✓応募頂けますが、知的財産権以外の知財（ノウハウ等）の事業との関連を応募書類にご記入ください。
※営業秘密に係る詳細な内容まで記載いただく必要はありません。

報告書の内容を一切公開したくない場合でも応募は可能か

✓知財金融の取り組みを中小企業や金融機関に広げるためにも公開に理解を頂く企業を優先的に採択させていただきます。
※営業秘密に係る情報以外（事業の提供価値等）を可能な範囲で公開頂くことを想定しております。作成の際にも専門家や事務局と協議しながら公開を見据えた報告書を作成します。

金融機関として複数件の応募は可能か

✓応募頂けますが、採択上限があるため、すべて採択できるとは限りません。まずは事務局にご相談ください。

知財専門家はどのように選定されるか

✓対象とする企業の業種や経営課題、金融機関の支援目的などに応じて弁理士や中小企業診断士等のマッチングを行います。

過去の特許庁事業で知財ビジネス評価書・報告書を作成した企業は応募可能か

✓応募頂けます。
※企業の経営課題・金融機関の支援目的が事業趣旨と合致する場合のみ、採択の方針となります。

※昨年多く質問いただいた、知財ビジネス評価書との違い、金融機関の評価の内容についてはそれぞれP6、21に記載しているのでご参照ください
※本資料は説明会終了後にお送りの上、HPにも掲載いたします

金融機関のご担当者様につきまして

応募を検討頂いている金融機関のご担当者様に向けまして、以下の内容を説明する動画を知財金融HPに公開しています。

- ✓ 応募に向けた推進方法
(どのような企業が合致しているか、企業への説明のポイントなど)
- ✓ 報告書作成プロセスにおける関与方法
(報告書を効果的にするためのポイントなど)
- ✓ 本事業の出口
(報告書作成後にどのような出口に繋がりをるかかど) など

本日の説明会を踏まえてご関心を持っていただいた金融機関のご担当者の方につきましてはご参照頂けますと幸いです。

アクセスはこちら

<https://chizai-kinyu.go.jp/video-for-financial-institutions/>

知財金融ポータルサイトのトップページ

「更新情報」-「【令和7年度知財金融事業】行員向け説明動画 公開のお知らせ」

- ご質問は、Teamsの「Q&A機能」、又は「リアクション機能の挙手」にてお願いいたします
- 事務局から発言を許可しますので、ご発言の際は、マイクのミュートをお外し下さい
- 本説明会にてご回答できないご質問へは、後日、参加者全員に対して回答を送付する予定です
- 応募を検討頂いている金融機関のご担当者様向けの動画についても後日HPでアップロード